Kadokawa Comics A
Fate/ゼロ
フェイト/ゼロ
4
漫画 真じろう 原作 虚淵玄 /TYPE-MOON
(ニトロプラス)

倉庫街での戦闘が終了した直後、切嗣は舞弥を伴い、
ランサーのマスター・ケイネスを討つため、潜伏先のホテルを強襲。
だが作戦を終え引き上げる間際、
舞弥の前に最も忌避する人物が現れるのだった。
そして、凶行を続けるキャスター陣営を止めるため、
暫定的な聖杯戦争のルール変更が、
監督役・言峰璃正より告げられる。
炸裂する凶刃、虚空の闇を払う運命の第四巻!!

9784041204016

1920979005600

ISBN978-4-04-120401-6
C0979 ¥560E

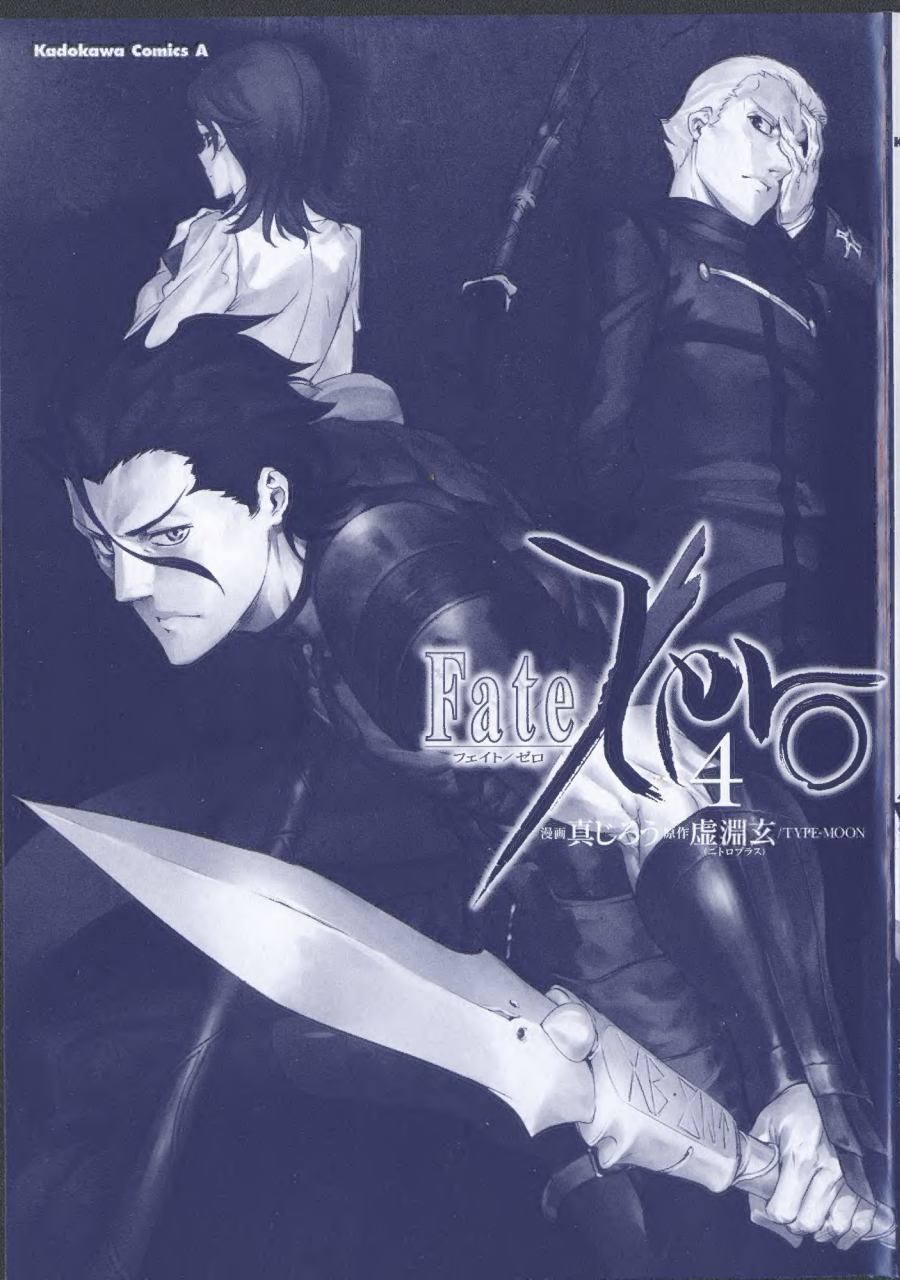
定価:本体560円(税別)
発行:角川書店

Kadokawa Comics A

Fate/Zero フェイト/ゼロ 4

漫画 真じろう
原作 虚淵玄 (ニトロプラス) / TYPE-MOON

KCA345-4
角川書店



Kadokawa Comics A

Fate/Zero フェイト/ゼロ 4

漫画 真じろう
原作 虚淵玄/TYPE-MOON (ニトロプラス)

KCA345-4
角川書店

ここ冬木市湾岸地区の
倉庫街で発生した
原因不明の爆発事故ですが
消火作業が始まってから
一時間が経とうとしています
この事故に先立ち
過激派団体から
犯行声明が出されて
いたことが
新たに判明し
警察はその
団体による犯行
との見方を示し
調査を……
ブッ
なるほど
監督役などと
息巻くだけあって
聖堂教会の手際は
中々のものだ
私が人払いの結界を解いてから
三〇分足らずのうちにすべての
隠蔽工作を終えた計算になる

Fate
フェイト／ゼロ
漫画 真じろう
原作 虚淵玄/TYPE-MOON
（ニトロプラス）

第 16 話

Contents

第 16 話
001

第 17 話
033

第 18 話
065

第 19 話
087

第 20 話
121

番 外 編
◆Illyasviel's pudding◆
153

ギリ
出てこい
ランサー

お側に
今夜はご苦労だった
誉れ高き
ディルムッド・
オディナの双槍
存分に見せて
もらった
恐縮であります
我が主よ
ああ
存分に見せて
もらった上で
問うがな
……貴様
なぜ遊びに
興じた？

あのキャスターの出方を
手をこまねいて
見守っていたのでは
無辜の人間の犠牲がいたずらに
増えていくばかりです
奴の悪行は容認しがたい
これ以上被害が拡がる前に
こちらから討って出るべきです
アイリ
この森の結界の術式は
もう把握できたかい？

……ええ
大丈夫
結界の綻びも
見当たらないし
警鐘も走査もちゃんと
機能するけれど……
ギリ…

今回ここの城を使う
つもりはなかったが
状況が変わった
キャスターを
おびき寄せるまでの間
僕らはここで
籠城の構えを取る
……ねぇ切嗣
それよりも問題は
ランサーへの対策
じゃないの？

あなたがロード・エルメロイを
仕留めてから一八時間経つけれど
相変わらずセイバーの左手は
治癒しないままよ
あの槍の呪いが
消えていない以上
ランサーは健在のはず
単独行動スキルのある
アーチャーならともかく
ランサーのサーヴァントが
マスターなしで現界し続けて
いられる時間じゃないもの
確かにな
ランサーは新たな
マスターと再契約したか
或いはケイネスを
仕留め損なったのか……
あのとき邪魔が
入ったせいで
奴の死体は確認
できてないからな
それならキャスターを
万全の態勢で迎撃するためにも
まずはランサーを――
キャスターが現れても
正面からぶつかる
必要はないよ
君は地の利を最大限に
活かしてセイバーを
逃げ回らせ敵を攪乱
してくれればいい

な……
キャスターと……
戦わせないの？
キャスターは他のマスター全員が狙ってる
放っておいても誰かが仕留めるさ
なにも僕らが手を煩わせる必要はない
むしろキャスターを追って血眼になっている連中こそ格好の獲物なんだよ
セイバーを目当てにキャスターが動けばそれを追ってこの森にまで踏み込んでくるマスターがきっと現れるはずだ
キャスター狩りに熱を上げている最中にまさか狩る側から狩られる側に廻るなんて予想もしないだろうからね
僕はそいつらを側面から襲って叩く
だから急に方針を変えて私たちと合流したのね

マスター
貴方という人は……
いったいどこまで
卑劣に成り果てる気だ!?
衛宮切嗣
貴方は英霊を
侮辱している
私は流血の代行の
ために招かれた
犠牲を最小限に留めるよう
万軍に代わる一騎として
命運を背負い勝敗を競う…
それが我ら
サーヴァントのはずだ!
なのになぜ
戦いを私に
委ねてくれない!?
昨夜ランサーのマスターを
襲ったという手口もそうだ
一歩間違えれば
大惨事になっていた!
あんな真似をしなくても
私とランサーは再戦を
誓っていたというのに!

――それとも切嗣
貴方は自身の
サーヴァントである私を
信用できないというのか？
あれは私の知っている
切嗣の顔じゃない

切嗣の過去の話も彼がその傷を
引きずっていることも聞かされている
これが切嗣の本来の姿なの？
久宇舞弥さん
切嗣がアインツベルンで隠遁していた間の
外界におけるエージェント役であり
過去に切嗣と行動を共にしていた女性
何度か顔を合わせた
ことはあるけれど…
私と違って彼の態度にも
動じずに落ち着き払っている
きっと今の切嗣
こそ本来の——
彼女の知る姿のままの
衛宮切嗣なのね…

もう何年も
嗅いでいなかった
煙草の匂い
それともこれは
硝煙の匂い？
巻き戻っていく
切嗣の時間が
私と切嗣の時間が――

……かっ…
監督役が提示した新しいルールはどうなるの？
キャスター以外とは休戦のはずでしょ？
構わないよ
罰則は設定されていないし雑癖をつけられてもシラを切り通せばいい
それに今回の監督役はどうにも信用できない
なにせ素知らぬ顔でアサシンのマスターを匿っている奴だ
ひょっとすると遠坂ともグルかもしれない
裏が見えてこないうちは疑ってかかった方がいいだろう
……
それじゃあ解散としよう
僕とアイリはしばらくこの城に留まってキャスターの襲来に備える
舞弥は街に戻って情報収集に当たってくれ
わかりました

……騎士の誇りに懸けて

戯れ事でこの槍を執ることはありませぬ

この私の令呪をひとつ削いだ上でもなおだ

……

ほうそうか言うではないか

なら問うがなぜセイバーを仕留められなかった？

それは――

一度ならず二度までもセイバーを圧倒しておきながら貴様は二度も決め手を逃した

切嗣、あなたは――
覚えてる…？
もし僕が――

もし僕が今ここで
何もかも抛り投げて
逃げ出すと決めたら——
アイリ
君は一緒に
来てくれるか？
イリヤは……
城にいるあの子は
どうするの？
戻って連れ出す
邪魔する奴は殺す
それから先は——
僕は僕の全てを
僕らのため
だけに費やす
君とイリヤを
護るためだけに
この命の
すべてを
そうだった
のね…

私とイリヤが貴方を
弱くしてしまった
どうしようもなく――
危ういほど脆弱に
喪うものも
痛みを感じる心すら
持たなかったから
切嗣は強くいられた
だからこそこの世界を
救済しようという
遠すぎる理想を追い求め
そのための犠牲を
躊躇なく切り捨てられる
――そんな苛烈な
戦士でいられたんだわ

私とイリヤが貴方を
弱くしてしまった

危ういほど脆弱に

どうしようもなく――

喪うものも
痛みを感じる心すら
持たなかったから
切嗣は強くいられた

だからこそこの世界を
救済しようという
遠すぎる理想を追い求め
そのための犠牲を
躊躇なく切り捨てられる

――そんな苛烈な
戦士でいられたんだわ

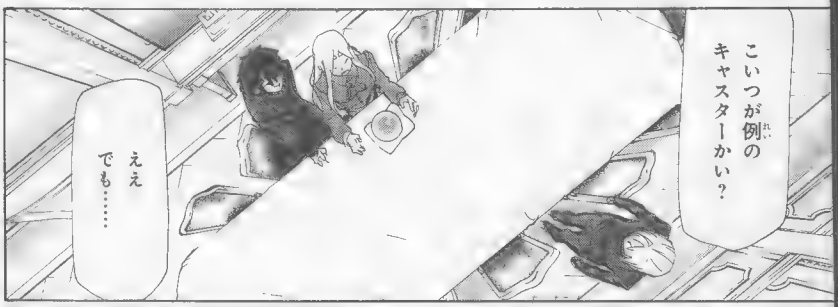
今 切嗣が自分に求めているのは
なのにどうしてこの冷酷さを
装うだけで相当の
無理を強いられている
七骨ハーに対する拒絶は
結局そんな切嗣の弱さ
余裕のなさの表れだったのね
逃げられるの？
私たち
逃げられる
今ならば まだ
……――嘘
それは嘘よ
衛宮切嗣
聖杯を捨てた自分を――
あなたは決して
逃げられない
世界を救えなかった
自分をあなたは
決して赦せない
きっとあなた自身が
最初で最後の断罪者として
衛宮切嗣を殺してしまう

……怖いんだ……
奴が――言峰綺礼が
僕を狙ってる
僕は負ける
かもしれない
舞弥に聞いた
奴は僕を釣る餌として
ケイネスを張っていた
行動を読まれてた……
君を犠牲にして
戦うのに
イリヤを残した
ままなのに僕は……
一番危険な奴が
もう僕に狙いを
定めてる！
決して
遣いたく
なかった
アイツが！
あなた一人を
戦わせはしない
キュッ！

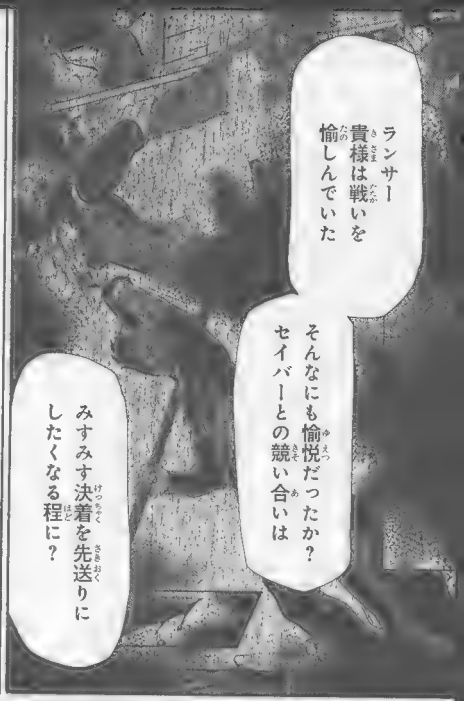
私が守る
セイバーが守る
それに……
舞弥さんも
認めるしかない
今の切嗣に必要なのは
久宇舞弥さんただ一人…
いる
でも……
どうか今だけは——

Ht
——早速かい？
ええ
舞弥が発つ前で幸いだった
今なら総出で迎撃ができる
アイリ
遠見の水晶球を用意してくれ

ヒュイィ…
――いたわ


こいつが例のキャスターかい？
ええ
でも……

何のつもりかしら？
アイリ奴の位置は？
城から北東に二キロと少しまだ深入りしてくる気配はないわ
もう少し結界の深部に踏み込んでくれば味方の戦いを掩護できるエリア・エフェクトが発動できるんだけど……


ランサー
貴様は戦いを
愉しんでいた
そんなにも愉悦だったか？
セイバーとの競い合いは
みすみす決着を先送りに
したくなる程に？

……申し訳
ありません 主よ
いずれ必ずや
あのセイバーの首級は
お約束いたします

どうか いま
しばらくの…
改めて誓われる
までもない！
それは当然の
成果であろう！

アイリスフィール
敵は誘いをかけています
ええ
これは人質……
でしょうね
きっと
罠や仕掛けを
発動すれば
あの子供たちまで
巻き込みます
私が直に出向いて
キャスターを倒し
救い出すしか
ありません
……
ピク
千里眼を見破られてる!?

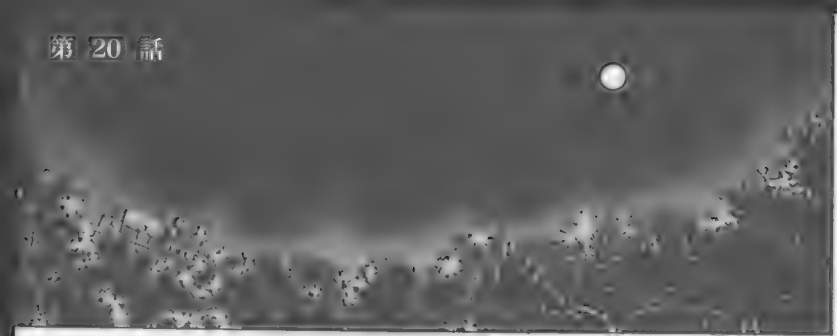
昨夜の約定通り
ジル・ド・レェ
罷り越してございます
……
我が麗しの聖処女ジャンヌに
今一度お目通りを願いたい
……まぁ
取り次ぎは
ごゆるりと
私も気長に待たせて
いただくつもりで
それなりの準備をして
参りましたからね
なに 他愛もない
遊戯なのですが――
少々お庭の
隅をお借り
いたしますよ？

ここどこぉ？
お母さぁん！
おうちに帰りたい！
LET'S PLAY♪
さぁさぁ坊やたち鬼ごっこを始めますよ
ルールは簡単この私から逃げ切ればいいのです
さもなくば——
ママァ
やめろッ！

ドガ
ビク

さアお逃げなさい
一〇〇を数えたら追いかけますよ？
ねぇジャンヌ
私が全員捕まえるまでにどのぐらいかかりますかねェ？
セイバー
お願い
キャスターを倒して！

第20話



−130：55：11

血の臭い――！
……！

第 20 話

なんという……
ようこそ
ジャンヌ
お待ちして
おりましたよ
如何ですか
この惨状は

貴様は私と契約した！
このケイネス・エルメロイに
聖杯をもたらすと！
それは即ち残る六人の
サーヴァント全てを
斬り伏せることと同義だ！
この戦いの
大前提だ！
それを今さら……
たかだかセイバー
一人について必勝を
誓うだと？
それが価値ある
約定だとでも
抜かすのか？
いったい何を
履き違えている!?
履き違えているのは
貴方ではなくて？
ロード・エルメロイ

そんなにも私が憎いですか？
ええ憎いでしょうともねぇ
神の愛に背いた私を貴女は断じて赦せないはずだ
ハアア…
かつて誰よりも敬虔に神を讃えていた貴女ですものね
——おぉジャンヌやはり貴女は怒りに燃えた眼こそが美しい
ギッ
カチカチ

痛ましいでしょう？
嘆かわしいでしょう？
この無垢なる子供たちが
最期に味わった苦痛の程
貴女には想像できますか？
でもねジャンヌ
この程度など
悲劇と呼ぶにも
値しませんよ
貴女を喪ってより
このかた 私が
重ねてきた所行に
比べれば——
おっと
！

その子供を放せ
外道
ジャンヌ
貴女がそんなにも
この子の救命を
望むなら――
フフ…
さあ坊や
お喜びなさい
敬虔なる神の使いが
君を助けてくれるそうだ
全能の神がようやく
慈悲を示したよ
お友達は誰一人
救ってもらえなかった
というのにねぇ
うわあぁ
さあここは危険だ
早く逃げなさい
このまま進めば
大きな城がある
そこで助けを――
ヒヒヒ
ガチガチ

ゴゴゴ
ゴキ
ぎぃぃ……
ミチミチ

申し上げたはずですよ？
次に会うときは
相応の準備をしてくると
!?

ギュ
我が盟友プレラーティの
遺したこの魔書により
私は悪魔の軍勢を
従える術を得たのです
ギリィ
如何ですか
ジャンヌ？
かつてオルレアンに
集ったいかなる兵団も
これほど豪壮では
ありますまい？

……
――良いだろう
もはや貴様と聖杯を競おうとは思わない

この戦いに私は
何も求めまい
何も勝ち取るまい
今はただ……
キャスター
貴様を滅ぼすため
だけに剣を執る

おおお ジャンヌ……
なんと雄々しい……
なんと気高い
ああ聖処女よ！
貴女の前には神すらも霞む！
穢れよ！
我が愛にて堕ちよ！
聖なる乙女よッ!!

しまったわ……

ジル・ド・レェ伯爵には悪魔召喚を目論んだ人物としての逸話が残っている

だったらあのキャスターが召喚魔術師であることは予想して然るべきだったのよ

セイバーの座が持つ抗魔力スキルは自分を標的として行使される魔術に対して通用するもの

召喚魔術やそれにより実体化した怪物の物理的攻撃に対しては無意味……

戦いの顛末は私の
使い魔を通じて
一部始終見させて
もらったわ
ランサーは良くやった
間違いは貴方の
状況判断ではなくて？
ソラウ
何を言う
んだ……
ランサーの
『破魔の紅薔薇』は
バーサーカーに
対してとりわけ
有効な宝具だった
さらにセイバーの
助勢があればあの黒い
サーヴァントは苦もなく
倒せていたでしょう

アイリ
まだ他のマスターが森に入ってきた反応はないのか？
……ええ
そうか
カチ
あれは切嗣の礼装
切嗣もそれだけ本気ということなのね…

舞弥
アイリを連れて
城から逃げてくれ
セイバーたち
とは逆方向に
わかりました
ここにいては……
駄目なの？
セイバーが離れた
場所で戦っている以上
この城も安全ではない
僕と同じことを
考える奴だって
いるだろうからね
……そうよね
切嗣に同伴したところで
足手まといにしか
ならないでしょうし
そもそもこの城で
合流したこと自体
予定外だものね

いいえ 違うわ…
私が不安に感じているのは舞弥さんと行動を共にすることに対してなんだわ……
――わかったわ
…どうした？
アイリ
!?

切嗣
あなたの目論見通りよ
どうやら新手がやってきたみたい
−130：48：29

これで五〇は斬ったはずだが――
なぜか数が減っている様子がない
ボコ
ボコ
ズバッ

なるほど
これでは倒しても
怪魔が無尽蔵に
再生してくるも同然だ
数えるだけ無駄
というわけか
こうなれば魔刀の
備蓄の出番だ
しかし機能しない
左手の管刀を補うには
魔刀放出が必要…
余計な魔刀の
消耗は手痛い
そもそもこの左手が
刀生であれば
約束された勝利の剣一で
一息に片づけられたものを

まさか……!?

この夥しい数の
怪魔を呼び出し
再生させる召喚魔術を
行使しているのは
あの魔道書そのもの

間違いない

おそらくは本そのものが
大容量の魔力炉を備え
それ単体の力で
術を行使できる怪物

キャスターはソレを
使役しているに
すぎないのだろう

正規のマスターが
持つ透視力を
もしアイリスフィールが
備えていたなら――
相手が宝具能力のみに
特化したタイプの危険な
サーヴァントであると
看破できていただろう
そうと知っていれば
やつの術中に
はまることなど……ッ

否！
そんな後悔は軟弱だ！
懐かしいですねぇ
ジャンヌ
何もかも
昔のままだ
多勢に無勢の窮地にも
決して臆せず屈せず
貴女の眼差しは
ただひたむきに勝利を
信じて疑わなかった

あの場では
ランサーの提言通り
バーサーカーを標的に
するべきだったのよ
……君はセイバーの
脅威を知らない
あれはとりわけ
強力なサーヴァントだ
総合力では
ディルムッドを
凌いで余りある
あの場で着実に倒せる
好機を逃すわけには
いかなかった！

貴方って人は……
自分のサーヴァントの
特性を本当に理解
しているのかしら？
何のための
『必滅の黄薔薇』だと
思っているの？
すでに治癒不可能の
手傷を負わせた
セイバーであれば
いつでも倒せたのよ
それよりもあの時点では
正体不明のバーサーカーの
方が脅威度は上だったわ
……ッ

やはり貴女は変わらない
ガックリィ
それなのに……
その気高き闘志
尊き魂の在りようは
まぎれもなく貴女が
ジャンヌ・ダルクで
あることの証
何故だ？
なぜ目覚めて
くれないのです？
未だ神の加護を
信じておいでか？
この窮地にも奇跡が
貴女を救うと？
――嘆かわしい！
コンピエーニュの
戦いをお忘れか!?
あれほどの辱めを
受けてなお貴女は
神の操り人形に
甘んじるのか!?
貴女を
栄光の頂から
破滅の奈落へと
突き落とした
神めの罠を！

あの
ふざけた口を
噤ませたい

くだらぬ妄想のために
幼子の命を奪った罪を

その浅ましさの
何たるかを
知らしめたい

なのに

……
ゲン
ガヒ

無様だぞセイバー
もっと魅せる剣でなければ騎士王の名が泣くではないか
ランサー どうして……
何者だ!?
誰の赦しを得てこの私を邪魔立てするか!

貴様こそ誰の赦しを得ての狼藉か？
そこなセイバーの首級は我が槍の勲
横合いからかっ攫おうなどとは戦場の礼を弁えぬ盗人の所行だぞ
それはこちらの台詞だ 外道

第20話／END

Fate

番外編
◆Illyasviels pudding◆

番外編 ◆Illyasviel's pudding◆

フッ…
……フン
……

第一そこまでセイバーを危険視していたのならどうしてセイバーのマスターを放っておいたの？
ランサーがセイバーを引きつけている隙に貴方は無防備に突っ立っていたアインツベルンの女を攻撃できたんじゃなくて？
なのに貴方がしたことといえば最後までただ隠れて見ていただけ
情けないったらありゃしない
……
ケイネス
貴方は自分が他のマスターに対してどういうアドバンテージを持っているのか理解していないわけじゃないでしょう？
他でもない貴方自身が工夫したことじゃない
それは――無論――

のし
フフン！
!!
のし

フハ！
フン
……っ！
ねぇママ
あの人たち
何してるの？
シッ！
指差しちゃ
いけません！
ガガ
フン
傲慢で
プライドばかり高く
他人を見下すことしか
頭にない
そのためには
平気で他人を
足蹴にする――
典型的な魔術師だ

一流の魔術師どうしの闘いはすさまじい
一瞬でも隙を見せようものなら即座に上を取られる
それは魔術師として死に等しい屈辱だ
だが
ぬう!
くっ…!
およそ魔術師という生き物の最大の弱点はその驕慢による油断にある
見ろ
急所がガラ空きだ
イリヤの作ったプディングは誰にも渡さない!

10年後

番外編
◆Illyaviel's pudding◆
END

Staff/
錦山まる、春乃えり、綾野貴弘

In the battleground, there is no place for hope.
What lies there is just cold despair and a sin called victory,
built on the pain of the defeated.
The world as is, the human nature as always,
it is impossible to eliminate the battles.
In the end, killing is necessary evil-and if so,
it is best to end them in the best efficiency
and at the least cost,
least time.
Call it not foul nor nasty.
Justice cannot save the world. It is useless.

4

Fate/Zero

Comic : SHINJIRO
Original Work : GEN UROBUCHI(Nitroplus)
/TYPE-MOON

サーヴァントとマスターの
本来なら単一しかない
因果線を二つに分割して
配分する変則契約
サーヴァントへの魔力供給を
私が肩代わりできるように
パスを繋ぐなんて荒業
さすが降霊科随一の
神童と謳われただけの
ことはあるわよね
でもねケイネス
貴方は魔術師として一流でも
戦士としては二流よ
せっかくの下準備を
戦略的にまったく
活かしていないじゃない
貴方は自分の魔力を
総動員できるという点で
他のマスターに対し圧倒的に
優位に立っているのよ
だが……
戦いはまだ
序盤なんだ
緒戦のうちは
慎重に…
あらそう？
なのに
ランサーに
だけは結果を
急がせるわけ？
ランサーを
責める前に
まずは自分を
省みるべきよね
ケイネス
今夜の貴方は——
ソラウ様
そこまでにして
頂きたい

それより先は
我が主への侮辱だ
騎士として
見過ごせぬ
いいえ…
そんなつもりじゃ
……御免なさい
言い過ぎたわ

……ッ
ソ…ソラウ……
許嫁の私よりそのサーヴァントの言葉の方が君にとって重いというのか…!?

名門ソフィアリ家の息女
ソラウ・スアザレ・ソフィアリ

一目見たときから
恋い焦がれたただ一人の女性

ソフィアリ学部長から
君との婚姻を持ちかけられた時
私がどれほど歓喜したことか
君にはわからないだろう

だがこのソラウが
恥じらう姿は何なんだ

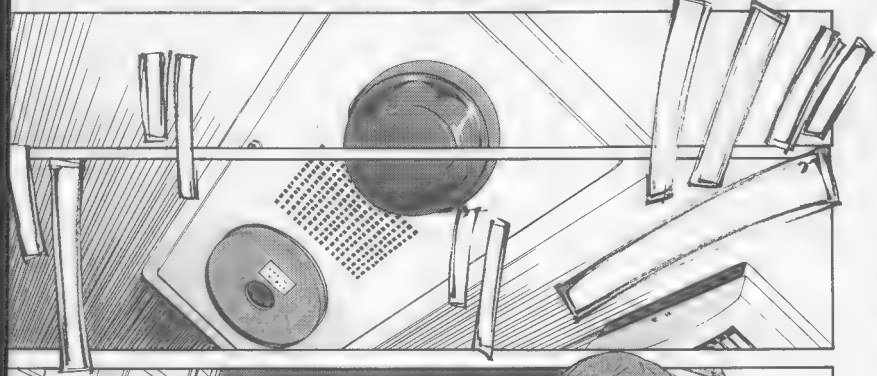
こんな表情
私の前で浮かべた
ためしがない

モゾ
モゾ

ディルムッドの
「魅惑の黒子」にとらわれた
とでも言うのか？

いや 邪推するな……

ソフィアリに
連なるものが
たかだか魅惑程度に
抗えぬわけがない

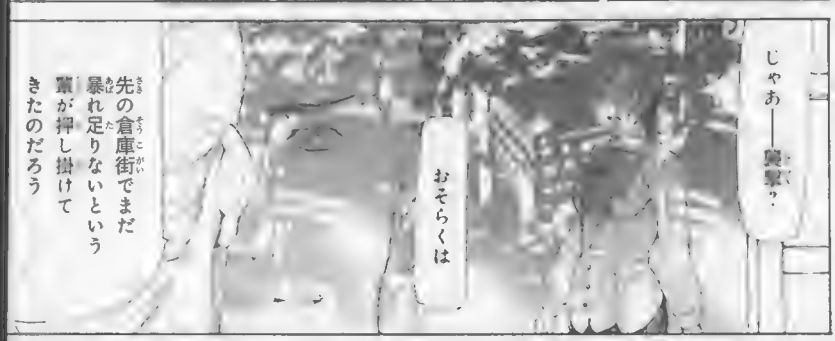


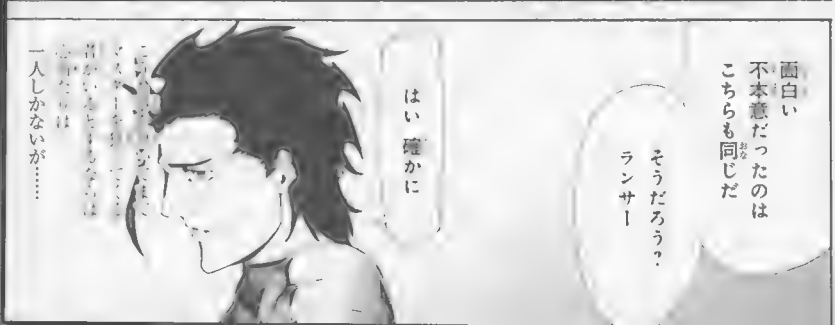
——なに!?

何事!?

フロントからの電話だ
ふむ
そうか
下の階で火事だそうだすぐに避難しろと言ってきた
小火程度のものだそうだがどうやら火元は何カ所かに分散しているらしい
まぁ間違いなく放火だな

放火…
よりによって今夜？
フン
偶然なわけが
あるまいさ
人払いの計らいだよ
敵とて魔術師
有象無象ともが
ひしめく建物では
勝負を仕掛ける気にも
ならんだろうからな


じゃあ——襲撃？
おそらくは
先の倉庫街でまだ
暴れ足りないという
輩が押し掛けて
きたのだろう


面白い
不本意だったのは
こちらも同じだ
そうだろう？
ランサー
はい 確かに
一人しかないが……

ランサー
下の階で迎え撃て
ただし無下に
追い払ったりはするなよ
承知しました
襲撃者の退路を断ち
この階に追い込めば
宜しいのですね？
そうだ
お客人には
ケイネス・エルメロイの
魔術工房をとっくりと
堪能してもらおう
ではないか

フロアひとつ借り切って
作った魔力城壁
結界の数は二四層
魔力炉三基と
猟犬代わりの悪霊
蝙蝠が数十体
トラップにもぬかりなし
廊下の一部は異界化
までさせている
まさに完璧な工房だ

他の宿泊者どもが
引き払えばもう何の
遠慮もいらない
ふふふ
お互い存分に秘術を
尽くしての競い合いが
できようというものだ
ソラウ
私が戦士として
二流だと言う指摘
すぐにも
撤回してもらうよ
ええ
もちろん
期待してるわよ

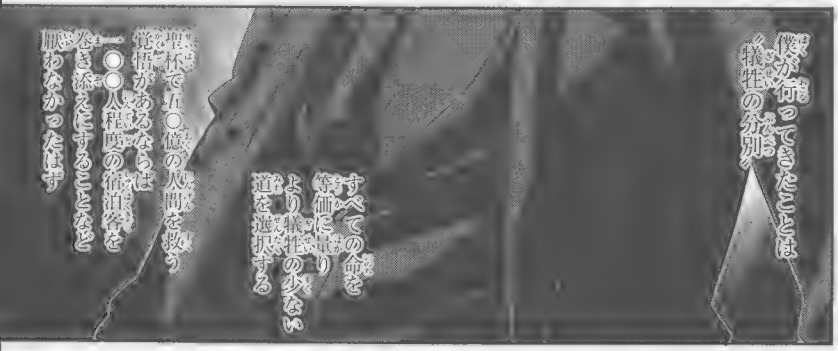
さあどこからでもかかってきたまえ！
ハハハハハ！
……アーチボルト様！
ケイネス・エルメロイ・アーチボルト様！いらっしゃいませんか？
アーチボルト様！……
――はい私ですご心配なく

ケイネス・エルメロイ・アーチボルトは私です
妻のソラウともども避難しました
えっ…と…
……そう…ですか…
ぼ～
あぁ…はい！
ああ そうでしたか！

全員避難完了です！
準備完了だ
そちらは？
異状なしです
いつでもどうぞ

舞弥 そっちは？
最後まで三二階に
動きはありませんでした
標的はビルの外には
脱出していません
ということはケイネスは、
五〇mを自由落下して
あの瓦礫の山の仲間入りか。

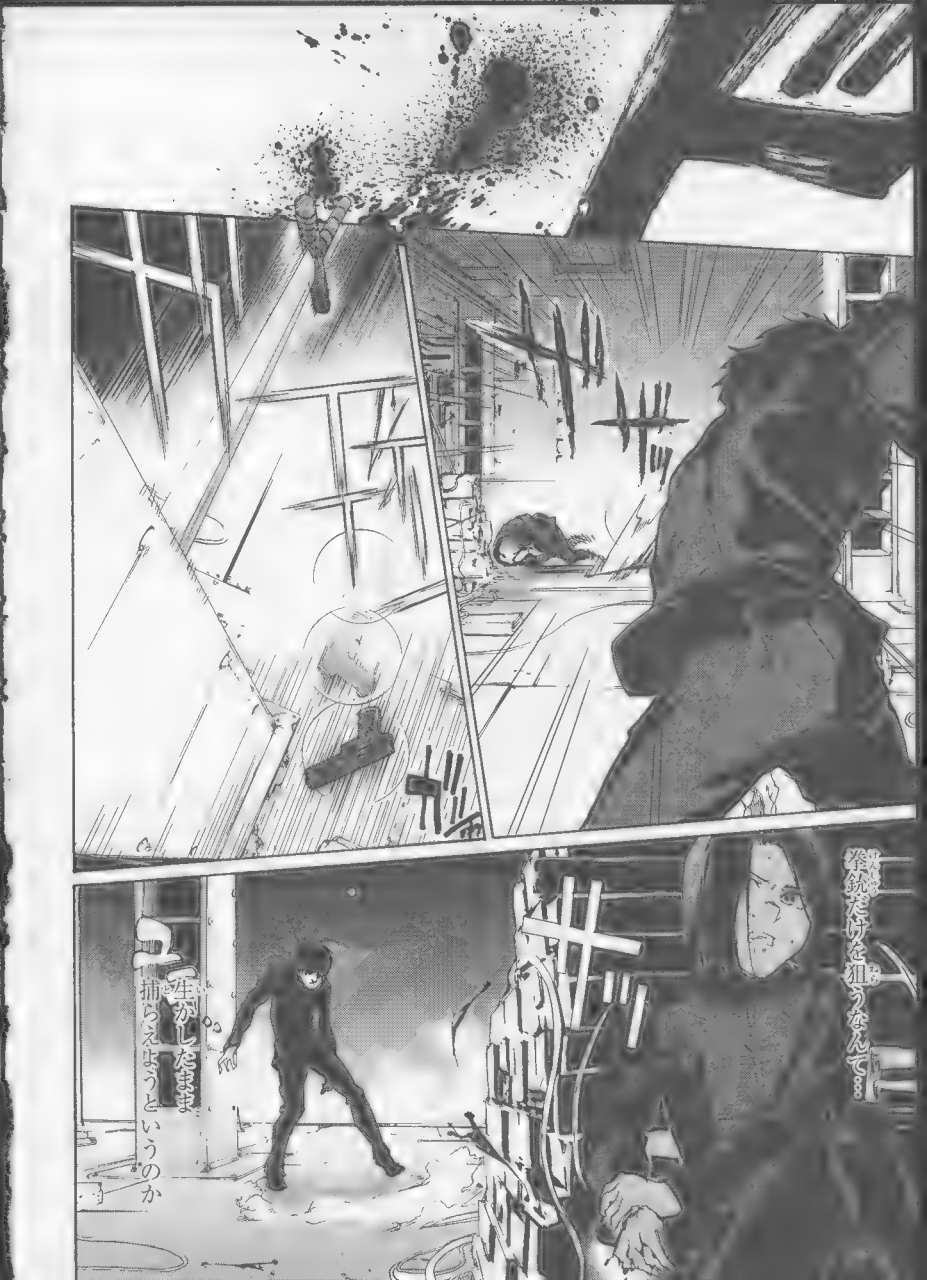
僕には『気の迷い』などという感傷に浸ることは許されないんだ



第17話

ほう？
君とは初対面なはずだが
それとも私を知るだけの
理由があったか？
ならば君の素性にも
予想はつくが
そうだとすれば君は
他にも色々と
知っていただろうな
ここが冬木ハイアットの
三二階を見張るには
絶好の位置だったことも
あのホテルに誰が
逗留していたのかも
それにしても
建物もろともに
爆破するとは
ここまで手段を選ばぬ輩が
魔術師とは到底思えんな
或いはよほど魔術師の
裏をかくのに長けている
ということか？
この男は――
切嗣を知っている…！
切嗣の行動を読んで
網を張っていたのか

私にばかり
喋らせるな 女
返答はひとつ
だけでいい
おまえの代わりに
ここに来るはずだった
男はどこにいる？
殺すしか――ない

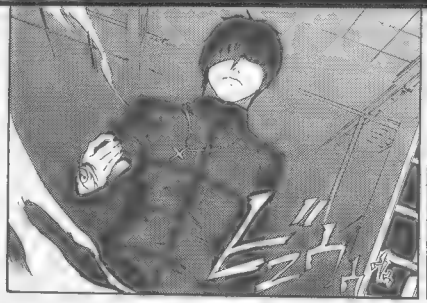

拳銃だけを狙うなんて…
生かしたまま捕らえようというのか

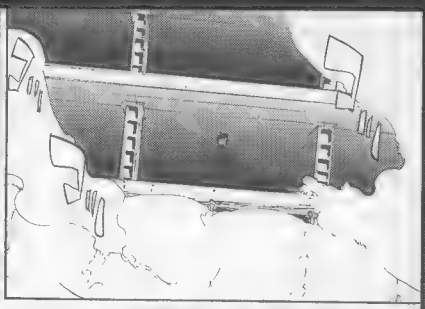
どうした舞弥？
何があった？
助けを呼ばないのか？
衛宮切嗣は近くにいるんだろう？
くくくくくッ！
相当に仕込まれているようだな
動きもなかなかに悪くない

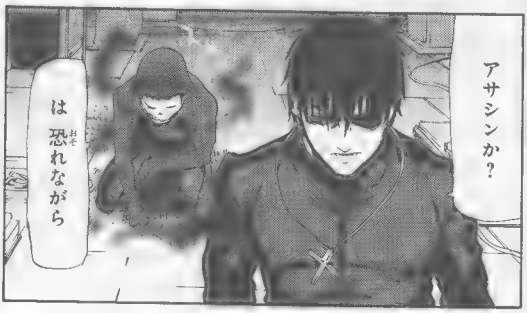
どうした舞弥？
何があった？
助けを呼ばないのか？
衛宮切嗣は近くにいるんだろう？
相当に仕込まれているようだな
動きもなかなかに悪くない
ッ！

煙幕
!?

……
……フン
逃げたか
カラカラ


ビュウ




アサシンか？
は 恐れながら

市街ではみだりに姿を晒すなと言っておいた筈だが？
申し訳次第もありませぬ
ですが早急に御耳に入れておかねばならぬ儀がございました故…
……

−144:09:25

そうか
ついにキャスターも捕捉したか

さすがに魔術師の英霊だけあって私のアサシンでも気取られることなく「工房」の近辺にまで踏み込むことは困難です
それでも大凡の位置は特定できたので現在も周囲一帯を包囲して監視下に置き
キャスターが工房の外にいる間の動向は逐一把捉しております

つまりキャスターは工房に籠城するのでなくその外で活発に活動していると？
それなのですが……二人は深山町から隣市を股に掛けて就寝中の児童を次から次へと誘拐して回りました
夜明けまでに一五人その大方については穏便に事を運んでいましたが——
うち三件では家人が目を覚まして騒ぎになり一家皆殺しという結末に

キャスターは何の配慮もなく魔術を行使しその痕跡の秘匿も一切行っていません
既に父の指示で聖堂教会のスタッフが隠蔽工作を遂行中です
が……今後にキャスターとそのマスターが行状を改めるとも思えません
……いったい何を考えているんだ？
何者なのだ？キャスターのマスターは
アサシンの聴覚で二人の会話を盗み聞いた限りでは——
マスターはキャスターを召喚するより以前から同じような凶行を重ねていた模様です

まだ確証はありませんが
いま評判の連続殺人犯と
同一人物ではないかと
……ッ
今月に入ってから報道を賑わせている謎の連続殺人犯が
市内だけで既に四件
しかも最後の一件については
就寝中の家人に忍び込んで
家人全員を惨殺しておきながら
いまだ容疑者は
特定できていないという…

聖杯戦争の進行は秘密裏に
行われるのが鉄則
今の時期にこの土地が
世間の注目を惹くような事態を
歓迎するマスターがいようはずがないが
その二人組について
何か身元の知れる
手掛かりは？
マスターの名は『龍之介』
またキャスターは『青髭』と
呼ばれている様子です

青髭？ では
キャスターの真名は
ジル・ド・レェ伯か？
有り得る話かと思われます
錬金術と黒魔術への耽溺でも
知られている人物だけに
会話の流れから察するに
このマスターには
聖杯戦争の知識どころか
魔術師としての自覚すら
備わっていない模様です

さもありなん
だな
大方なにかの偶然で
魔術の素養もない部外者が
サーヴァントとの契約を
果たしてしまったのだろう
……ではそのマスター
サーヴァントの傀儡に
成り果てているわけか

いえ それが……
どうにもキャスターの
言動もまた常軌を
逸しておりまして
聖杯はすでに
我が手にあるだの
ジャンヌ・ダルクの
救済がどうのと
まったく要領を得ない
話ばかりです
私個人の感想としては
キャスターとそのマスターには
もはや聖杯戦争そのものが
全く眼中にないのではないかと

錯乱して暴走したサーヴァントと
それを律することもないマスターか
一体どうしてそんな連中が
聖杯に選ばれたのやら……
サーヴァントに充分な魔力を
提供できない非力なマスターが
殺傷した犠牲者の魂を糧として
魔力の不足分を補うこともある
そういうたぐいが
現れることあろうことは
予測の内だった
それ自体はさいい
魔術師は条理の外に
ある存在だ
倫理で是非を
問うことはない
それが慎重に隠蔽され
秘密裏に行われる
限りにおいては
黙認して構わない
だがこれは……
これは放任
できんでしょう
時臣くん
キャスターたちの行動は
明らかに今回の聖杯戦争の
進行を妨げるものだ
ルールを逸脱して
余りある

無論です
それ以前に私は
魔術の秘匿に責任を
負う者としても
断じて赦せない
遠坂の家門は
本の地における
一脈の管理と性質の監視を
魔術協会から正々に委託されている
魔術の秘匿を徹底できないような
愚か者は魔術協会に代わって
私が排除しなければならない
おそらくは最近の
児童失踪事件も
この二人の仕業
でしょう
報道されている
だけでも
行方の知れない
子供たちは一七人
今朝の〝再調達〟も
含めれば三〇人を
超す勢いです
彼らの行状は今後さらに
エスカレートしていく
ものと思われます
父上 早急に手を
打つ必要が
うむ
既に警告や罰則の
程度で済まされる
問題ではない
キャスターと
そのマスターは
排除するしか
他にあるまいな

若干のルール変更は
監督役の権限内です
ひとまず聖杯争奪を保留し
全てのマスターを
キャスター討伐に動員しましょう
キャスターを仕留めた者には
後の戦局を有利に運べるだけの
恩賞を用意します
他のマスターたちとて
キャスター一人の暴走で
聖杯戦争そのものが破綻する
ような結末は望まんでしょう

――成る程
しかしキャスター討伐の
報奨によって余程の
アドバンテージが
もたらされるようでは……
それが後々に跳ね返って
我々の障害に
なりかねませんな

無論それは
好ましくない
如何なる展開でも
キャスターに最後の
とどめを刺すのは
アーチャーでなければ
なりますまい

――成る程
当然ですな

では早速
他のマスターを
招集する準備を
整えますので
——ときに綺礼
聞けば昨夜の君は
冬木教会の外で行動を
起こしたそうだが？
申し訳ありません
危険は承知の上でしたが
小うるさい間諜に目を
つけられ やむを得ず…
間諜？
教会にいる君にか？
なぜサーヴァントを
使わなかった？
それには及ばない
瑣事と判断しまして
曲者の口は封じました
ご心配なく
……たしかに…
君ほどの手練れなら
その判断も解るがね
今の局面においては
いささか軽率
すぎたのではないか？
はい
今後は慎みます

――アーチャー
数こそ少ないが
時臣の酒蔵よりも
逸品が揃っている
けしからん弟子も
いたものだ
一体何の用だ？

退屈を
持て余している者が
我の他にもいる様子
だったのでな
どうなのだ綺礼とやら？
お前もあの時臣めに
奉仕するばかりで
心満たされているわけ
ではないのだろう？
……今さら契約が
不服になったのか？
ギルガメッシュ
我を招いたのは時臣だし
この身の現界を保っているのも
時臣の供物によるものだ
そして何よりも奴は
臣下の礼を取っている
まぁ応えてやらん
わけにもいくまい
だが正直あそこまで
退屈な男とは思わなんだ
まったくもって
面白味の欠片もない

万能の願望機を以て
「根源の渦」に至る？
つくづくつまらん企てが
あったものだな

「根源」への渇望は
魔術師固有のもの
部外者がとやかく
言えるものではない

そういうお前も部外者
だそうだな 綺礼

――しかも本来は
魔術師どもと対立する
立場だそうだが

……「根源」へと
至る道程とはいわば
世界の〝外側〟への逸脱だ

それによって〝内側〟
であるこの世界に
何がもたらされる
わけでもない

だから〝内面〟の視野しか
持たない教会にとって
魔術師たちの探究は
まったく意味のない
つまらない企て
としてしか理解できない

成る程な
たしかに我は
我が庭たる
この宇宙を
愛でるだけで
満たされている

我は我の支配の及ばぬ
領域になど興味はない
「根源」とやらには
何の関心も湧かぬ

もし冬木の聖杯が
『根源』の探求だけに
特化した装置であるなら
聖堂教会は魔術師どもを
放任していただろう

ところが不幸にも
聖杯は〝万能〟であった
世界の〝内側〟をも変革しうる
可能性を無限に秘めている
まさに極めつきの異端であり
我らの信仰を脅かすものだ

だからこそ聖堂教会は
遠坂を選んだ

放置できないほど
危険な異端であればこそ
それを〝無意味でつまらない〟
用途に使い潰してくれるなら
我々にとっては望ましい
結末だからな

もっとも私の父には
それとは別な私情も
ある様子だが

では時臣以外の
マスターどもは
時臣とはまた違った
動機で聖杯を求めて
いるわけか？

ギッ
時臣師は魔術師の典型であると同時に最右翼だ
今日日あれほど純粋に魔術師の本道を貫いている人間はそういるまい
他の連中が求めているのは総じて浮き世の名利であろうよ
威信 欲望 権力……
すべて世界の〝内側〟だけに完結する願望だ
結構ではないか
どれも我が愛でるものばかりだぞ
おまえこそは俗物の頂点に君臨する王だな
ギルガメッシュ

そういうお前はどうなのだ？
ピ
綺礼聖杯に何を望む？
私には……べつだん望むところなどない
成就すべき理想も遂げるべき悲願もない私をなぜ聖杯が選んだのか分からない
私は——

それが迷うほどの難題か？
理想もなく悲願もない——
ならば愉悦を望めばいいだけではないか
馬鹿な！
神に仕えるこの私によりにもよって愉悦など——そんな罪深い堕落に手を染めろと言うか？
罪深い？
堕落だと？
なぜ愉悦と罪とが結びつく？
たしかに悪行で得た愉悦は罪かもしれん
だが人は善行によっても喜びを得る
悦そのものが悪であるなどと断じるのは一体どういう理屈だ？

……愉悦もまた私の内にはない

求めてはいるが見つからない

……二峰綺礼

――俄然 お前に興味が湧いてきた

愉悦と■うのはな
言うなれば魂の容だ

〝有る〟か
〝無い〟かではなく

〝識る〟か
〝識れない〟かを
問うべきものだ

綺礼 お前は未だ己の魂の在り方が見えていない
愉悦を持ち合わせん などと抜かすのは 要するにそういうことだ
サーヴァント風情が 私に説法するか？
粋がるなよ雑種
この世の贅と快楽とを 貪り尽くした王の言葉だぞ まぁ黙って聞いておけ
ともかく綺礼 お前はまずは 娯楽というものを 知るべきだ
内■にばかり 目を向けていても 仕方ない まずは外に 目を向けろ
……そうだな 手始めに我の娯楽に 付き合うところから 始めてはどうだ？

今の私には遊興に費やしていられる時間などない
まぁそう言うな
時臣に課された役務の片手間に出来ることだ

連中の意図や戦略だけでなくその動機についても調べ上げるのだ
そして我に語り聞かせろ造作もないことであろう？

……そんな事を聞いてどうするというのだ？
言ったであろう？我はヒトの業を愛でる
条理を捻じ曲げ奇跡にまで繋ろうとする度し難い願望の持ち主が五人も雁首を揃えておるのだ
きっと中には面白味のある奴が一人か二人は混じっているさ

少なくとも
時臣に比べれば
如何程かマシで
あろうしな
……
……いいだろうアーチャー
請け負った
ただしそれなりに
時間はかかる
構わぬ
気長に待つとする

まあ今後も酒の面倒は見に来るぞ
ここの酒は天上の美酒とまでは言わんが僧侶ごときの倉で腐らせておくには惜しいものばかりだからな
思えばセイバーのサーヴァントのうち あの英霊ほどに戦う理由が希薄な者は他にいるまい
そういう意味では私と通ずる所がある

私が聖杯に選ばれた理由はどこかにあるのだろう
私自身すらも未だ識らずにいる内なる心の領域で聖杯の奇跡を求めているのかもしれない
だがそれは断じてアーチャーのように愉悦などではない

これまでの生涯のすべてを求道に費やしてきた身としてそこばかりは譲れない

私の求め欲する解答に
誰よりも迫ったであろう人間

ついさっきアーチャーと
語らったように
あの男と問答できたなら――

いや交わすものは銃弾と刃で
あろうとも構わない

私は切嗣という人間を
識りたいだけだ

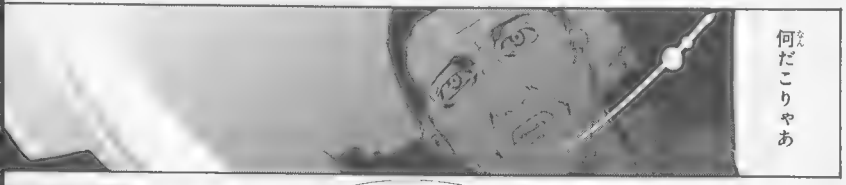
ならば生命の応酬は
あるいは言葉より
なお雄弁にあの男の
魂の形を浮き彫りに
してくれる
かもしれない

Fate 零

to the consequence that is necessary for those
What is the true purpose of justice and who is it
ould to use the power that is given
The world is in the hands of those who
a symbol. If everyone does what
he does what they must to achi
st to end them in the best
and at the least
least time.
Call it not fo
Justice
not save the world. It

第18話

—140：41：54



なんか——
水銀の滴みたいだな
ピクン
……
主任？
どうかしました？
ズン
……こいつを
運び出さないと
ズズ
は？
トラックに
載せるんだ
さあ急げ！

……あの……
こちらはマッケンジー様のお宅で宜しいでしょうか？

うむ
それはここの家主の姓で相違ない

……えぇと
征服王
イスカンダル
様って――

いらっしゃいますか？

奴のことだが

……ああ はい
そうでしたか

アハハ……

あ
ここに受け取りのサインお願いします

署名か
宜しい

――では確かに
受けとったぞ

もう昼じゃないか…
……
菱を噛む
度胸さえない臆病者な
役者不足も甚だしい

もし僕が采配を取っていたらケイネス先生と同じ戦い方をした
今回だってライダーの無茶の巻き添えにされただけだ
それでも——
余のマスターたるべき男は余と共に戦場を馳せる勇者でなければならぬ
それでもあいつはケイネス先生より僕の方が良いと
僕を認めてくれた
他人からの賞賛なんて価値がないと思っていたのに僕は…
ああもう！
これからどんな顔してあいつと向き合えばいいんだよ!?

……
そういえば今日は
妙に静かだな
いつもならあいつのいびきが…
コソ
——って
いないじゃ
ないか！
あいつまさか
一人で外に!?
おう
起きたか坊主
……オマエ……
その格好で下に
降りたのか？

案ずるな
家主の夫妻であれば
今朝は早くから外出中だ

だが二人の留守に
荷物が届いたのでな
余が受け取りに出た

……その格好で玄関に？

仕方あるまい
届け物を預かってきた
使者を労うことなく
帰らせるわけには
いかんだろうが

あのな
別にオマエ宛ての
荷物じゃないんだから
労うとか何とか
関係ないだろ

いや
受けとってみたら
余の荷物であった

……なに？

ぬおっ

お届け先

冬木市深山町中越2-2-8
マッケンジー宅
征服王イスカンダル

様

通信販売というヤツを試してみたのだ

『月刊ワールドミリタリー』の広告欄になかなかそそられる商品があったのでな

つ…通販……？

オマエ一体どこでそんな知識を手に入れた？

ん？ その程度のこと本やビデオの巻末にいつも載ってるではないか

一体いつの間に……

…っつ…！

っつーか代金はどうしたんだよ!?

問題ないちゃんと代引きで申し込んだからな

HA HA HA

Po!

僕の財布!?
ぼおお
いいったい
何を買った!?
ミサイル?
ジェット
戦闘機か!?
ガス
馬鹿者
どれも坊主が
払えるような
金額ではなかろうて
フハハ!
この胸板に世界の
全図を載せるとは!
良し良し
気に入った!
実物は写真で
見るよりも一段と
素晴らしいな
ウム!
実に小気味良い!
……Tシャツ?
では…

いざ！
待て!!!
ボヌーボヌーボヌー

ちょちょちょ
ちょっと待て！
どこへ行く
つもりだ？
ええい！
無論 街へだ！
当代風の衣装を
着ていれば
実体化したまま街を
出歩いたって
文句はあるまい!?
この征服王の
新たなる偉容を
民草にみせつける！
ボルルルル
ボルルルル
ボルルルル

あれは 必須か!?
必要不可欠だッ!!!
先に断っとくがボクはオマエのために街まで出向いて特大ズボンを買ってくるなんてことは絶対にしないからな!
なんだとう!!
坊主 余の覇道に異を唱えると申すか?
覇道とオマエのズボンとは一切合切!
金輪際!
まったくもって関係ない!

外を遊び歩く算段
なんぞする前に
敵のサーヴァントの
一人なりとも
討ち取ってみろ

ええい
気忙しい奴よのう
サーヴァントの相手
なんぞいつだって
できるではないか

じゃあ今やれ！
今すぐ誰か倒してこい！
そしたらズボンでも
何でも買ってやる

むうう…

……あい判った

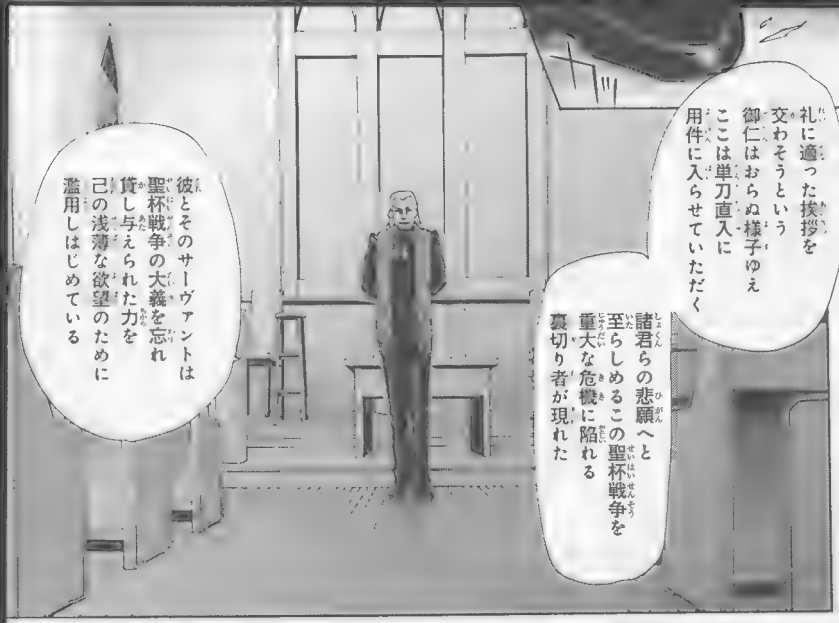
とりあえず敵の首級を
挙げさえすれば
そのときは余に
ズボンを穿かすと
そう誓うわけだな？

……オマエ
そんなにそのTシャツで
外を歩きたいのか？

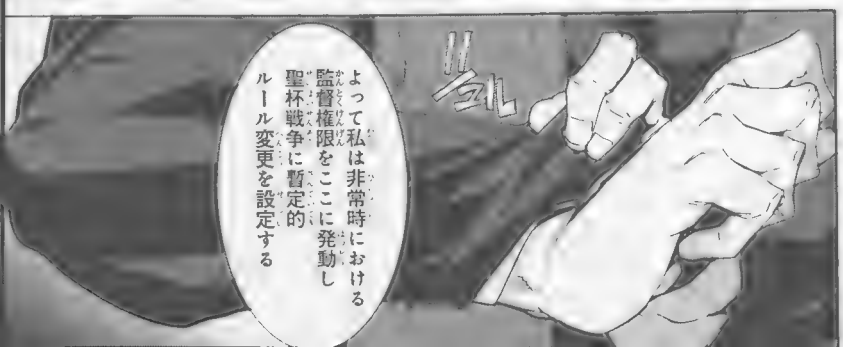
騎士王の奴めがやっておったのだ
余も王として遅れを取るわけにはいかん
何よりこの服の柄は気に入った
覇者の装束に相応しい
こいつを英雄として語り継いだのは歴史家たちの壮大なる悪ふざけなんじゃ…
どぉ～ん
音…いや魔力パルスだ
むん
今のは……東の方角か？

あの方角ってたしか……
冬木教会のある辺りだよな
あれは狼煙か
常人には見えない
魔力で編んだ煙だ
あれは我々に関わりの
あるものか？
そうと言えなくも
ないんだが
どうしたもんかな…
僕の知る限り
前例のない事態だ
監督役によるマスターの招集か……
想像しうるに何らかのルール変更や
条件付けの告知といったところか
それに伴う情報の開示も
あるかもしれない
今の戦局にまつわる
情報の収集と考えれば
監督役の話も聞いておく
べきかもしれないな…
……ライダー
ズボンの件は後回しだ
その前にちょっと
用事ができた
何だというのだ
忌々しい
せっかくの散歩日和
だというのに！

−138：15：37
マスター招集の信号から二時間…
思いのほか集まりがいい
マスターの代わりに遣わされた使い魔は五体
脱落したことになっている綺礼と信号の意味合いも理解していないであろうキャスターのマスターを除けばこれで全員だ
時臣君もぬかりなく使い魔を参列させている
となるとビル爆破に巻き込まれたケイネス・エルメロイもやはり健在ということか


礼に適った挨拶を
交わそうという
御仁はおらぬ様子ゆえ
ここは単刀直入に
用件に入らせていただく
諸君らの悲願へと
至らしめるこの聖杯戦争を
重大な危機に陥れる
裏切り者が現れた
彼とそのサーヴァントは
聖杯戦争の大義を忘れ
貰し与えられた力を
己の浅薄な欲望のために
濫用しはじめている

そのキャスターの
マスターは昨今の
冬木市を騒がせている
連続誘拐・殺人事件の
下手人であることが
判明した
彼は犯行に及んで
サーヴァントを使役し
しかもその痕跡を
平然と放置している
この重大な違反行為が
どのような結果を
もたらすか——
諸君らには説明する
までもあるまい


よって私は非常時における
監督権限をここに発動し
聖杯戦争に暫定的
ルール変更を設定する

これは過去の聖杯戦争で脱落したマスターたちの使い残した令呪である
私はこれら予備令呪のひとつひとつを私個人の判断によって任意の相手に委譲する権限を与えられている
諸君らにとってこれらの刻印は貴重きわまりない価値を持つはずだ
全てのマスターは直ちに互いの戦闘行動を中断しキャスター陣営の殲滅に尽力せよ
彼の者らを討ち取った者には特例措置として追加の令呪を寄贈する
もし単独で成し遂げたのであれば達成者に一つ
他者と共闘しての成果であれば事に当たった全員に一つずつ

そしてキャスターの消滅が
確認された時点で改めて
従来通りの聖杯戦争を
再開するものとする

さて質問がある者は
今この場で申し出るがいい
――尤も 人語を発音
できる者のみに
限らせてもらうがね

仕込みはこれで上々――
あとは放っておいても
飢えた四頭の猟犬が
キャスターに襲いかかる
//
標的の顔と名前や工房の
人まかな位置も開示すれば
//効率的に事を運べただろうが
//
とうやってそれを
調べ上げたのかを責められると
//
//
//

Fate

In the battlegro place for hope
What lies there is just cold despai and a sin called

よーし
今日こそ絶対に
負けないからね！
−221：36：01
お見つけた
今日一個目
うそ！
どこどこ？
わたし見落としたり
してないのに！

ふっふっふ
先取点だな
この調子でがんがん行くぞ
負けないもん！
今日はぜったい負けないもん！
ああった
イリヤも一個みーつけたっ！
ふふふ
父さんも二個目を見つけたぞ
ヌフフ…
どれ？
どれ!?
えー？あの枝クルミじゃないよ？
いやいやイリヤあの枝はサワグルミといってクルミの仲間なんだよ
だからあれもクルミの冬芽だ

ずるーい！
ズルイズルイ
ズルイ！
キリツグずっと
ズルしてた！
だってなぁ
こうでもしないと
父さん勝ち目ないし
そんなの
駄目なのっ！
キリツグだけ知ってる
クルミなんてナシなの！
ハハハ
でもイリヤ
またひとつ勉強に
なっただろう？
サワグルミの実は
クルミと違って
食べられないって
憶えておきなさい
モムン
そういうズルイこと
ばっかりやってたら
もうイリヤ
キリツグと遊んで
あげないよ！

そりゃ困る――
ゴメン
ゴメン
謝るよ
もうズルしないって
約束する？
するする
もうサワグルミはなし
よろしい
なら また
勝負してあげる
チャンピオンは
いつでも挑戦を
受けるのだ
はい
光栄であります
お姫様
あははっ！
高い 高い！

さぁ
しゅっはーつ！
ヤーヴォール！

冬木市街から西に三〇キロにある森林地帯
重層の幻覚と魔術結界によって隠されたアインツベルンの拠点
聖杯戦争のためだけに地元から移築されたアインツベルンの支城の一つ
—131：23：03
地脈の中心となるのは二カ所
セカンドマスターである遠坂の邸宅ともう一つは言わずと知れた円蔵山だ
この辺り一帯の霊脈はすべてこの山に集まることになる
詳細はアハト翁から聞いての通りなわけだが——

疲れてきたかい？
アイリ
いいの
何でもないわ
先を続けて
疲労がないと
いえば嘘になる――
でも私はベッドで
休息できたけれど
切嗣はきっと
一睡もしていない
円蔵山には頂上の柳洞寺を
基点として強力な結界が
張られている
そのせいで
サーヴァントのような
自然霊以外の存在は
参道からしか
進入できない…
昼近くに城に着いた直後に
監督役の告知のチェックで
使い魔を操作したり
立て続けに雑事の
処理をこなしている
昨夜の倉庫街の戦いの後にも
ランサーのマスターを
襲撃してきたって言うし
そんな切嗣たちが
疲れも見せずにいるのに
弱音なんて吐いていられない
そんなことよりも
なしろ――

セイバーを使う上では
留意しておいてくれ
切嗣のセイバーに
対する拒絶の姿勢が
アインツベルン城にいた
頃よりも露骨に
なってる気がする…
さらにこの二カ所には劣るが
やはり地脈の集中する
要地があと二つ新都にある
南の丘の上にある
冬木教会と
都市区画の東にある
新興住宅地がそれだ
よって聖杯の降霊を
行えるだけの霊格を
備えたポイントは
冬木市内に都合
四カ所あることになる
戦いの後半
サーヴァントの数が
絞り込まれてきたら
このいずれかを拠点として
制圧しておかなくては
いけないわね？
そういうことだ
地勢については
こんなところだが――
何か質問は？

セイバー
何か不明な点はある？
これといって特には
充分な説明でした
で 今後の方針だけれど
他のマスターも全員が
キャスターを狙うと
見ていいかしら？
まあ間違いないだろうね
監督役が提示した報賞は
たしかに旨味がある
はっ……
だが僕らには
アドバンテージがある
キャスターの真名は
現状では僕らしか
知らないだろう
おまけに何を血迷ったか
セイバーを
ジャンヌ・ダルクと
勘違いして付け狙って
いるときたもんだ
こいつは好都合だよ
僕らはただ待ち構えて
網を張っていればいい
――やれやれ
よりにもよって
ジル・ド・レェ伯とはね
マスター
それでは
足りない